

# 太平洋戦争への道

## 戦中写真を読む

①

写真は、太平洋戦争勃発とともに始まったマレー半島の戦いの際、現地の人々による強烈な印象を残した銀輪部隊の姿である。

日本軍が自転車に乗って、怒濤のごとく南下する光景は、マレーシアやシンガポールでは今も忘れられることができない記憶として残る。実際、シンガポール国立博物館には



銀輪部隊の巨大な写真とともに、当時使われた自転車に乗って英連邦軍の戦いにまい進しようとしていたのである。むしろ、工業化が遅れていた日本の輸出品のひとつが、実は自転車であった。た道は決して平坦では

ない。当時、工業化が遅れていた日本の輸出品のひとつが、実は自転車であった。た道は決して平坦では

なかった。山や森が続く、河川などでは自転車を担いで渡ることも頻繁にあった。一日に何度もパンクの修理に追われもした。

戦争中には思いもよらないことであったが、多くの兵士が戦っていたのは、敵軍との武力戦よりも、戦場を渡り歩く中で

## 守り通した記録解説

毎日戦中写真  
毎日新聞社のカメラマンや記者が日中戦争から太平洋戦争にかけて、海外で撮影した写真・ネガ約6万枚。東京大、京都大との共同研究に基づき、2025年を目標にデジタルアーカイブ化に取り組んでいる。



毎日戦中写真  
毎日新聞社のカメラマンや記者が日中戦争から太平洋戦争にかけて、海外で撮影した写真・ネガ約6万枚。東京大、京都大との共同研究に基づき、2025年を目標にデジタルアーカイブ化に取り組んでいる。

毎日戦中写真は終戦時、戦争責任の証拠となることを恐れた軍部から焼却を命じられたが、当時の社員が寺や社屋の地下倉庫に隠し、守り通した。記録されていたのは、戦地の様子だけでなく、取材者の姿や暮らし、自然や動物たち。写真とともに保存されているアルバムには、軍による検閲記録も残る。



⑤ジョホールバルへと進撃する日本陸軍の部隊—英領マレー・ジョホール州で、佐藤成夫、安田清一、安保久武撮影⑥ジョホールバルに殺到した日本軍に協力する住民—英領マレーで、佐藤成夫撮影、いずれも1942年1月

連載「戦中写真を読む」では、日中戦争から太平洋戦争まで、北はアリュン列島から南は太平洋諸島まで、若いカメラマンや記者の目と心で捉えられた戦場の多様な側面を、京都大の貴志俊彦教授が解説する。原則火曜日掲載。

おこわり

写真説明は、この連載の

当時の記述を基に、現在の用字用語に即して表記します。「〇〇基地」などに伏せ字のまま表記します。